

## 令和5年度 第1回 館山市子ども・子育て会議 要録

- 1 委員会名 館山市子ども・子育て会議
- 2 日 時 令和5年7月25日（火）10：00～11：40
- 3 会 場 市役所本館2階会議室
- 4 出席委員 石渡委員長、中島副委員長、齋藤委員、石井委員、中村委員、田中委員、清宮委員、鈴木健一委員、吉井委員、石垣委員、鈴木ひとみ委員、古谷野委員、土岐委員
- 5 事務局 教育部長、こども課長、副課長（幼保係長）、家庭児童係長、子育て支援係長、岡田主任主事、黒川主事、小野寺主事
- 6 会議次第
  - 1 開 会
  - 2 市長挨拶
  - 3 委嘱状交付
  - 4 委員自己紹介
  - 5 委員長・副委員長選任
  - 6 議 事
    - (1) 令和4年度子ども・子育て支援事業実施状況について【資料①、②】
    - (2) 質疑・意見交換
    - (3) その他
      - ・北条地区でのこども園化の推進について
      - ・第3期子ども・子育て支援事業計画について
- 7 閉 会

## ■議事

- (1) 令和4年度子ども・子育て支援事業実施状況について【資料①、②】  
こども課子育て支援係長より報告

## ■意見交換の詳細

- (清宮委員) 認可外保育施設に通うお子さんが他の園に移る際に、お子さんの情報を次の園に提供し、他の園と連携できればよかったと思うことがあった。行政にそういう流れを作ってもらえたらと思う。
- (課長) こども課としても受入れの際にできる限りお子様の情報を抽出したいと思っているので、認可外保育施設と保護者からの協力を得て行えればと思う。
- (清宮委員) 園と園とのやりとりでは、個人情報に関係で難しい部分もあるので、行政の了解を経てというのが筋だと思った。
- (石垣委員) 事業番号3の休日保育について、幼稚園型こども園だと土曜開園の義務がないので、土曜日に開けても補助金額は変わらない。一方幼保連携型こども園だと土曜開園の義務があって、その分の補助金ももらえる。うちとしては土曜も開園したいが、そうすると経営が厳しくなるので、幼保連携型がよかったなと思う。
- (課長) とりあえずは、来年の4月からの幼稚園型を目指していただき、その後協議を重ねて検討していきたい。
- (鈴木委員) 事業番号22のマイ保育園登録制度の実施について、コロナもあって実際にはできなかったのかも知れないが、家庭保育をしている保護者が困ったときに気軽に保育士に相談できる環境ができればよいと思うので、ぜひ力を入れていただきたい。
- (課長) 以前は園開放を毎月実施していたが、コロナの影響により、年に1回次年度の入園児を対象としてのみ行うことになった。今年度はまだ元通りとはいかないが、そういう取組みも復活させていきたい。
- (鈴木委員) その延長線上に一時預かりなどもできると安心して預けられると思う。
- (課長) それができればよいが、現在は職員数がギリギリなので、今後余裕が出てくれば考えていきたいと思う。
- (齋藤委員) 事業番号1に当たり前のように「保育士の確保が急務だ」と書いてあるが、それは皆がわかっていること。それに関して、具体的な対応策はないのかと思う。保育士を確保するために、どうすればよいのかアイデアを出していないと増えていかないのではないかと。この会議の委員には保育経験者もいるので、意見を聞きたい。
- (課長) 今考えているのは、保育実習に来る学生の大学へ、公立園だけでなく私立園も一緒に働きかけたらどうか。学校側からも力を入れて案内をしてもらえるように働きかけたい。

(石垣委員) 全国的に保育士が少ない理由は待遇と言われているが、館山においても待遇に理由があると思う。私立幼稚園としては、保育士の給料を上げるために市から補助を出してもらいたい。

(課長) 今現在、県の補助事業を活用して、私立園には29,000円が上乘せになっているはず。県の事業だが、市も上乘せして支払っているため、それ以上というのは今すぐは難しい。こちらの環境や教育的場面の方を宣伝していただければと思う。

(部長) 保育士に限らず、現在役所の中でも保健師等を含めた技術職の採用募集をしてもなかなか応募してもらえない実情がある。それをどう打開していくかという中で、先日お試しで、市の仕事を各セクションから安房高校の学生に直接説明させてもらった。早い段階で職に興味をもってもらうのは取り掛かりとして非常に大事だと思う。ここだけでなく、庁内全体で意識づけをしておく必要がある。

(吉井委員) 小学校・中学校の教育をしていく中で、地元に残る子を育てたいと思っているが、こちらには大学がないので、都会にでてしまうと、利便性や就職率などを理由に戻ってこないことが多い。どの大学に行っても市内で就職すれば奨学金が減額や免除になるということがあれば館山市に戻ってきてもらえてもいいと思ってもらえるのでは。以前鴨川市では城西国際大学で、地元就職した場合に奨学金が優遇されることがあり、地元就職する学生を確保できたことを聞いた。

(部長) 奨学金については教育総務課が窓口になり、館山市ふるさと創成奨学金を実施している。大学を卒業後、館山市に戻ってくる場合には、貸し付けた額の月々返済が3分の1免除になる。しかし民間がやっている奨学金や国が始めた給付型の奨学金など、現在は様々な奨学金制度があるので、館山市としては、地元に戻ってくればこういうメリットがあるという施策をまだまだ見直す必要があると思う。

(石垣委員) 若い人たちに戻ってきてもらうための策として、手当の問題もあるが、もう1つは生活に対する支援がある。特に住宅に関する支援があればよいと思う。

## ■議事

### (3) その他

- ・北条地区における認定こども園化の進捗状況について【資料③】  
こども課副課長より説明

## ■意見交換の詳細

(石垣委員) 新規にこども園を開設するには、この子ども・子育て会議で同意を得ることになっているはず。そういった同意はなかったと思うが、北条地区のこども園に関しては新規ではないという考えでよいか。

(副課長) 通称認定こども園法の34条に公私連携幼保連携型認定こども園に関する条文の記載があり、子ども子育て会議での承認を経ずに、市長を経由して県知事に届け出ることによって設置できるとある。

(鈴木委員) 1号認定の定員が34人だが、こんなに少ないのか。また、2、3号認定の定員を資料②の見込量を比較すると、ほとんどがアワーズに吸収されてしま

うのではないかと思うが、どうか。

(課長) 説明が前後するが、まず2、3号認定の子どもについては、協議している中で、現在太陽会が運営している託児所をこちらに吸収することになったため、保育ニーズを拡大した。それに伴い、幼稚園措置の子については、現在の利用数を受けられるように想定している。

(鈴木委員) できればこれを機会に他の公立園でも3歳の短時間児を受けられるようにしてほしい。

(課長) 公立では、どの園も同じサービスを提供することが前提となる。幼稚園措置の子は午後も教育活動を行うことになっており、4、5歳だけなら複式でも可能なので職員1人で対応できるが、3、4、5歳となると複式では難しいので1人では対応できないのではという意見を現場から聞いている。現実的には1対1になる可能性もある。この件はこれから考えていかなければいけないと思っているが、そういう問題が見えてきている。

(委員長) 公私連携幼保連携型認定こども園について、この会議では、進捗状況をしっかり説明していただき、委員からの意見が反映されることを前提に今後も進めていただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

- ・第3期子ども・子育て支援事業計画について【資料④】  
こども課子育て支援係長より説明

#### ■意見交換の詳細

(齋藤委員) アンケート形式ということだが、ぜひQRコードを活用していただきたい。紙に書くのはやらないと思う。

(課長) 設問数が多いため、QRコードによる入力だと最後まで辿り着かずに終わってしまう心配があるので、今のところ紙を想定している。

(齋藤委員) 対象者には郵送するのか。

(課長) 園に所属している場合は園から配布する。回収方法は回収箱の設置を考えている。

(齋藤委員) コスト面を考えるとQRコードの方がよいと思う。学校からのアンケートなども今はQRコードを読み取って回答するようになっている。

(課長) 5年後にはまた変わってくるかもしれないが、今回は紙でと考えている。

#### ■議事

##### (2) 質疑・意見交換

#### ■意見交換の詳細

(中島委員) 事業番号22のマイ保育園制度について、ちびっこデーが以前は行われていたと思うが、日数が少ないと都合を合わせるのが大変なので、日数を増やした方がよいと思う。

保育士不足について、資格があっても現場から離れている人がいるので、そういう人にあたってみてはどうか。資格がなくても補助員をしている人が、通信制で資格を取得した例もある。

地元に残る人材の育成について、安房校生のアルバイトが禁止となっているが、アルバイトでもボランティアでもよいが学童などで就労経験をしてもら

うのもよいのでは。

- (課長) ちびっこデーについては、お子さんの体調等もあると思うので、相談いただければ個別に対応している。  
保育士については、資格を持っているが現場から離れている方の情報がこちらにはない。その取り組みは行っていかなければいけないと思う。高校生のアルバイトの件については、教育長に話をしてみる。
- (石井委員) 保育士の募集について、ハローワークに問い合わせてもそういう人はいないと言われてしまう。資格をもっている方の情報をもらえれば助かる。保育士が増えれば、障害を持っている子のケアを手厚くできるし、子育て中の保育士の負担軽減にもつながる。
- (土岐委員) 市の広報に掲載するのはどうか。今は60～70代でも元気な方はたくさんいる。
- (副課長) 公立園の保育士募集をかけており、房日新聞、HP、フェイスブックやLINEにも掲載しているが、この1か月1人も応募が来ていない状況。広報の掲載についてはちょうど進めていたところ。
- (課長) 現職から人づてでなんとか発掘した例もあるが、なかなか難しい。
- (石垣委員) うちも保育士募集をかけているが難しい。市の方法を利用できるならお願いしたい。
- (委員長) 保育士の確保が急務と毎回書くのではなく、具体的な策を打って次回こども課から状況報告をお願いしたい。